平成26年 上半期

火災・救急統計

松山市消防局

目　　次

第１　火災の概況 ―――――――――――――――――――――――― 1

１　火災件数 ―――――――――――――――――――――――― 1
２　死傷者 ―――――――――――――――――――――――― 1
３　出火原因 ―――――――――――――――――――――――― 2
４　損害額 ―――――――――――――――――――――――― 3
５　近年の火災状況 ―――――――――――――――――――――― 3
６　地区別火災件数 ―――――――――――――――――――――― 4
７　住宅用火災警報器の奏功事例 ―――――――――――――― 5,6

第２　救急の概況 ―――――――――――――――――――――― 7

１　救急出場件数・搬送人員の状況 ―――――――――――――― 7
２　医療機関別搬送状況 ―――――――――――――――――― 8
３　事故種別・傷病程度別搬送人員の状況 ―――――――――― 8
４　応急処置実施状況 ―――――――――――――――――――― 9
５　地区別救急発生状況 ―――――――――――――――――― 10

火　災

第１　火災の概況

松山市における平成２６年上半期（１～６月）の火災概況は、火災件数９３件、焼損棟数１０２棟、死者７人、負傷者３５人、損害額１億１，１８１万４千円となっています。

１　火災件数

火災件数は９３件で、前年同期（８０件）と比較すると１３件増加しています。火災件数を火災種別ごとにみると、その他火災は減少していますが、建物・車両・林野火災は増加しています。また、焼損棟数は１０２棟で前年同期（６７棟）に比べ３５棟増加しています。

（▲は減少）

区分 火災種別	平成２６年	平成２５年	増　減
火　災　件　数	93	80	13
建　物　火　災	62	47	15
（住　宅　火　災）	(39)	(29)	(10)
そ の 他 火 災	22	26	▲ 4
車　両　火　災	5	4	1
林　野　火　災	4	3	1
船　舶　火　災	0	0	0
航 空 機 火 災	0	0	0

※その他火災とは、田畑の雑草、ごみ等の燃えた火災をいいます。

（▲は減少）

区分 焼損程度	平成２６年	平成２５年	増　減
焼　損　棟　数	102	67	35
全　　焼	16	9	7
半　　焼	6	7	▲ 1
部　分　焼	32	17	15
ぼ　　や	48	34	14

２　死傷者

火災による死者は７人で、前年同期（７人）と同人数となっています。また、負傷者は３５人で前年同期（２１人）と比べ１４人増加しています。

（▲は減少）

区分 死傷者	平成２６年	平成２５年	増　減
死　　者	7	7	0
負　傷　者	35	21	14

３　出火原因

出火原因を件数順にみると、「たばこ」が１４件（全体の１５．１％）、「たき火」が１３件（同１４．０％）、「こんろ」が１２件（同１２．９％）となっています。また「放火火災」は１１件で全体の１１．８％を占めています。

※「放火火災」とは、出火原因が「放火」及び「放火の疑い」の火災のことをいいます。

（▲は減少）

区分 出火原因	平成２６年	平成２５年	増　減
たばこ	14	13	1
たき火	13	15	▲ 2
こんろ	12	6	6
放火の疑い	7	11	▲ 4
マッチ・ライター	5	1	4
ストーブ	4	3	1
配線器具	4	3	1
放火	4	3	1
火あそび	2	4	▲ 2
排気管	2	1	1
灯火	2	1	1
取灰	2	0	2
電灯・電話等の配線	1	4	▲ 3
溶接機・切断機	1	2	▲ 1
内燃機関	1	1	0
電気機器	1	0	1
風呂かまど	1	0	1
ボイラー	1	0	1
その他	10	8	2
不明・調査中	6	4	2
合計	93	80	13

４　損害額

火災による損害額は１億１，１８１万４千円で、前年同期（８，４２４万６千円）と比較すると２，７５６万８千円増加しています。

（▲は減少）

区分 種別	平成２６年 （千円）	平成２５年 （千円）	増　減 （千円）
損　害　額	111,814	84,246	27,568
建　　物	91,940	83,212	8,728
車　　両	16,561	337	16,224
そ　の　他	161	689	▲ 528
林　　野	0	8	▲ 8
船　　舶	0	0	0
航　空　機	0	0	0
爆　　発	3,152	0	3,152

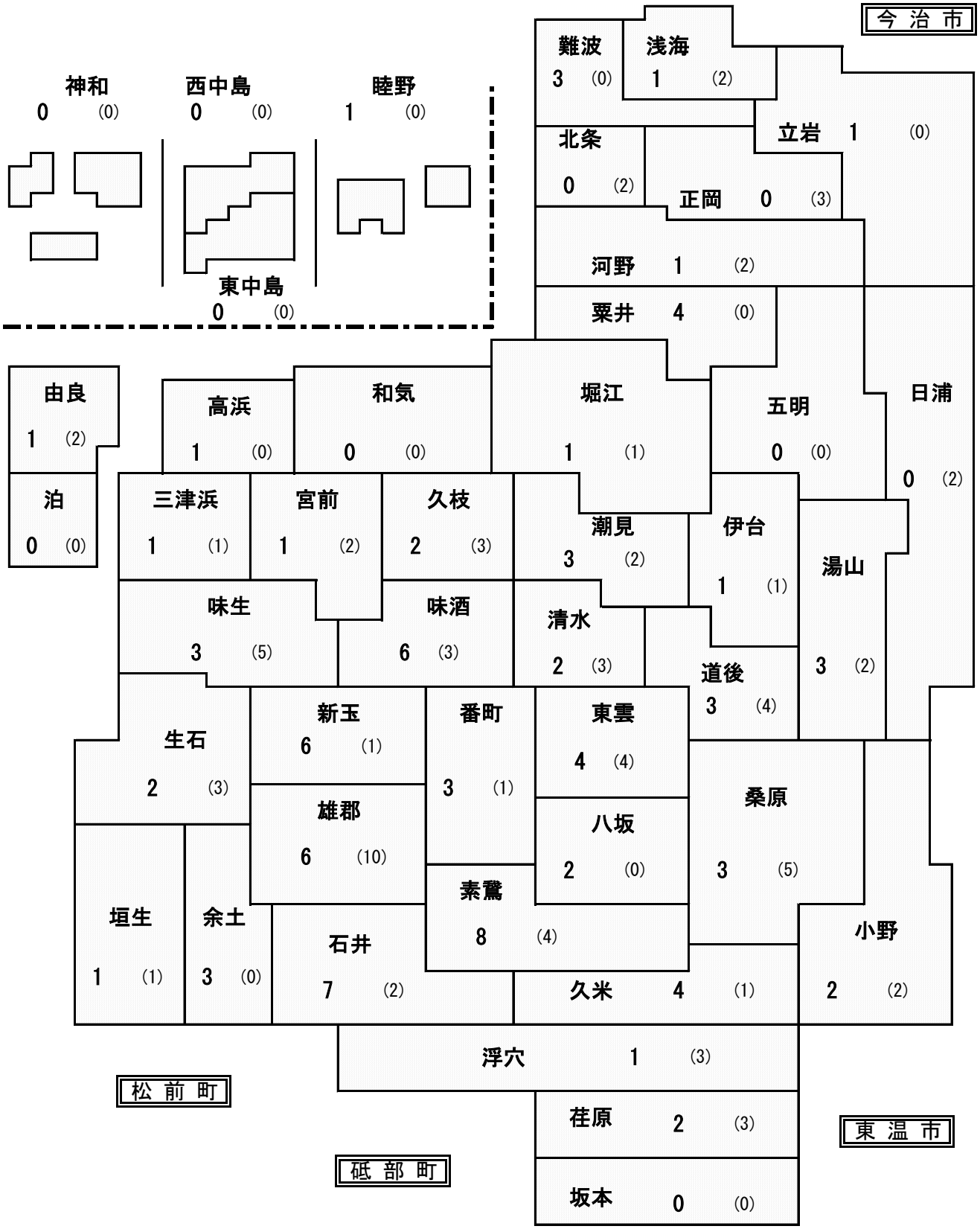
５　近年の火災状況

近年における上半期（１～６月）の火災状況は次のとおりです。

年 区分	平成26年	平成25年	平成24年	平成23年	平成22年	平均
火災件数 （件）	93	80	64	92	102	86.2
焼損棟数 （棟）	102	67	58	68	99	78.8
死者 （人）	7	7	4	2	3	4.6
負傷者 （人）	35	21	9	13	29	21.4
り災世帯数 （世帯）	81	45	39	46	62	54.6
り災人員 （人）	182	92	92	110	153	125.8
損害額 （千円）	111,814	84,246	43,311	83,050	112,692	87,023

6　地区別火災件数

（　）内は前年同期の火災件数



7　住宅用火災警報器の奏功事例

松山市では、これまでに住宅用火災警報器を設置していたおかげで大事には至らなかった事例を２３件も確認しています。（平成２６年６月３０日現在）

そこで、松山市で実際に起きた、ついうっかりの危険な具体例をご紹介しますので、住宅用火災警報器をまだ取り付けていないご家庭は、一日も早く取り付けるようにしましょう。

【事例１】　　一般住宅（２階建て）

早朝、台所で鍋をコンロにかけて火をつけ、これを忘れて２階に上がり、寝室で寝ていたところ、隣人が住宅用火災警報器の警報音と換気扇からの煙に気付き、火災を発見しました。

当事者は、隣人がドアを叩く音で目覚め、１階に駆けつけると、鍋から１ｍ程度の炎が立ち上がっていたが、水道の水をかけ消火に成功しました。

※　住宅用火災警報器の警報音は、居住者に限らず、近隣の方が気付くこともあります。

【事例２】　　共同住宅（アパート・マンション）

深夜未明、就寝中に住宅用火災警報器の警報音で目が覚め、火災に気付き消火器で初期消火を試みたが消火できず、避難しました。

また、階下の住人も同時刻頃警報音に気付き、上階の火災を発見し、１１９番通報を行いました。

※　就寝中の火災は、気付くのに時間がかかります。住宅用火災警報器によって、早期の避難が可能になります。また、台所に設置することも有効です。

【事例３】　　一般住宅（２階建て）

２階の寝室にいたところ、２階階段室に設置している住宅用火災警報器の警報音に気付き、部屋の外に出ると煙が充満しており、１階に下りたところで火災を発見しました。

また、他の家族も警報音で火災に気付いており、消火活動を行いましたが、消火困難と判断し、家族全員避難しました。

※　寝室だけでなく、煙の通り道となる階段室に取り付けた住宅用火災警報器も効果があります。

【事例４】　　一般住宅（２階建て）

台所のグリルで魚を焼いていることを忘れて、隣の部屋でテレビを見ていたところ、「火事です・火事です」という音声が鳴っているのに気付き、台所に戻ると煙が充満しており、急いでグリルのスイッチを切り消火しました。

同時刻頃、近所の人も、２階から出ている煙を発見し、玄関に行くと警報音が鳴っていたので、住人を呼び出すとともに、消防に通報しました。

※　１１９番通報が早期にでき、消防隊も早く駆けつけることができます。

【事例５】　　共同住宅（アパート・マンション）

深夜、居住者が寝たばこをしながら寝付いてしまい、布団に着火しました。同じアパートに住む住人が、出火室からの住宅用火災警報器の警報音と煙に気付き、出火室へ向かい、燃えていた布団を屋外に引き出し、水道水で消火に成功しました。

※　早期の発見による初期消火は、被害の軽減に繋がります。

【事例６】　　共同住宅（アパート・マンション）
　昼間、共同住宅居住者が調理中であることを忘れ、鍋をコンロにかけたまま寝込んでしまい、鍋が空焚き状態になり、発生した煙で警報器が作動し、近所の住人が警報音に気付いて共同住宅の管理会社に通報しました。管理会社から１１９番通報があり、駆けつけた消防隊により早期に状況の確認ができました。
※　火災に繋がることをいち早く発見し、火災を未然に防ぐことができます。

【事例７】　　１階物品販売店舗・２階住宅
　深夜、１階販売店の従業員が鍋をコンロにかけたまま帰宅し、鍋が空焚き状態になりました。２階に通じる屋内階段に設置していた住宅用火災警報器の警報音に、２階に居住する大家さんが気付き１１９番通報し、駆けつけた消防隊により早期に状況の確認ができました。
　この建物には、店舗内・屋内階段にも警報器を設置していました。
※　住宅以外の用途にも住宅用火災警報器は有効です。

【事例８】　　一般住宅
　夕方、台所で鍋をコンロにかけ、火をつけたままで、犬の散歩に行っている間に、鍋が空焚き状態になりました。近所の住人が住宅用火災警報器の警報音で火災を発見し、ガスの元栓を閉鎖しました。
※　住宅用火災警報器は、火災を早期に発見し、被害の拡大を防ぐことに有効です。

【事例９】　　一般住宅（２階建て）
　１階の居室にいたところ、２階で住宅用火災警報器の警報音が鳴ったため、上がってみるとクローゼット内部から炎が上がっていました。
　この家では住宅用火災警報器を２階の各部屋及び階段上部に設置しており、連動して鳴るものであったため早期に火災を発見できました。
※　連動式の住宅用火災警報器は、別の部屋にいても火災を早期に発見できます。

【事例１０】　　共同住宅（アパート・マンション）
　共同住宅居住者が、夕食後、やかんをコンロにかけたままリビングで飲酒、酩酊状態で寝ていたところ、やかんが空焚き状態になり、炎と煙が発生したことで警報器が感知し、警報音で居住者が目覚めて火事に気付き、共同住宅に備え付けの消火器で消火に成功しました。
※　住宅用火災警報器の警報音は、就寝中でも火災を早期に発見し、被害の拡大を防ぐことに有効です。

　住宅用火災警報器は、火災を早期に発見することで、「初期消火」「避難」「１１９番通報」が早期にでき、被害の軽減に役立ちますが、火災を防ぐことや、消火できるものではありません。
　日頃から、火気の取り扱いには十分注意し、火災予防を心がけましょう。

　住宅用火災警報器の設置場所などの詳しい情報は、松山市ホームページの「住宅用火災警報器」をご参照ください。
　http://www.city.matsuyama.ehime.jp/kurashi/bosai/sbbousai/sbkasaiyobo/juukeiki.html

救　急

第２　救急の概況

松山市における平成２６年上半期（１～６月）の救急出場件数は１２，０７０件、搬送人員は１１，１５６人で、前年に比較し出場件数・搬送人員ともに増加しています。
これは、一日平均６６．７件、２１分３５秒に１回の割合で救急車が出場し、市民４６人に１人の割合で搬送されたことになります。

１　救急出場件数・搬送人員の状況

事故種別では、急病・一般負傷・交通事故の順となっており、この３種別だけで、出場件数・搬送人員とも全体の約８６％を占めています。

（▲は減少）

区分		単位	平成26年	構成比（%）	平成25年	構成比（%）	増減
出場件数		件	12,070	100.0	11,850	100.0	220
内訳	火災		78	0.7	65	0.5	13
	自然		0	0.0	0	0.0	0
	水難		5	0.0	5	0.0	0
	交通		1,441	11.9	1,456	12.3	▲ 15
	労災		69	0.5	65	0.5	4
	運動		78	0.7	78	0.7	0
	一般		1,551	12.9	1,482	12.5	69
	加害		70	0.6	59	0.5	11
	自損		150	1.2	165	1.4	▲ 15
	急病		7,393	61.3	7,307	61.7	86
	転院		1,184	9.8	1,120	9.5	64
	その他		51	0.4	48	0.4	3
搬送件数		件	11,023	－	10,860	－	163
搬送人員		人	11,156	100.0	10,984	100.0	172
内訳	火災		24	0.2	20	0.2	4
	自然		0	0.0	0	0.0	0
	水難		0	0.0	4	0.0	▲ 4
	交通		1,428	12.8	1,449	13.2	▲ 21
	労災		65	0.6	64	0.6	1
	運動		82	0.7	81	0.7	1
	一般		1,442	12.9	1,392	12.7	50
	加害		63	0.6	52	0.5	11
	自損		123	1.1	117	1.1	6
	急病		6,785	60.8	6,688	60.9	97
	転院		1,139	10.2	1,105	10.0	34
	その他		5	0.1	12	0.1	▲ 7
出場平均（1日）		件	66.7		65.5		
出場間隔			21分35秒		21分59秒		

※1　出場平均については、前年比1日あたり1.2件増加しています。
※2　出場間隔については、前年比24秒短くなっています。

２　医療機関別搬送状況

医療機関への搬送状況は、救急医療機関１０，１３２人（９０．８％）、その他の医療機関１，０２３人（９．２％）、その他の場所１人となっており、救急医療機関への搬送が過半数を占めています。

事故種別等 / 告示の別等	急病	交通事故	一般負傷	その他	合計
救急医療機関	6,284	1,380	1,369	1,099	10,132
その他の医療機関	501	48	73	401	1,023
その他の場所	0	0	0	1	1
合計	6,785	1,428	1,442	1,501	11,156

※救急医療機関とは、厚生省令により救急告示を受けている医療機関のことである。

３　事故種別・傷病程度別搬送人員の状況

傷病程度別では、死亡１７０人（１．５％）、重症９７２人（８．７％）、中等症３，２８８人（２９．５％）、軽症６，７２１人（６０．３％）、その他５人（０．０％）となっており、軽症の占める割合が多いです。

	火災	自然	水難	交通	労災	運動	一般	加害	自損	急病	その他	合計
死亡	1	0	0	5	0	1	11	0	14	130	8	170
重症	6	0	0	43	9	3	111	0	12	458	330	972
中等症	6	0	0	183	25	15	370	8	28	1,906	747	3,288
軽症	11	0	0	1,197	31	63	950	55	69	4,286	59	6,721
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5	0	5
合計	24	0	0	1,428	65	82	1,442	63	123	6,785	1,144	11,156

（傷病程度）

死亡　　初診時において、死亡が確認されたもの
重症　　傷病の程度が３週間以上の入院加療を必要とするもの
中等症　傷病の程度が入院を必要とするもので重症に至らないもの
軽症　　傷病の程度が入院を必要としないもの
その他　搬送したが医師の診断がないもの及び「その他の場所」へ搬送したもの

４　応急処置実施状況

救急隊員が行える救命処置（ラリンゲアルマスク等による気道確保、気管挿管、除細動、静脈路確保、薬剤投与）の件数は２６４件（前年３０９件）となっています。

	事故種別	急病	交通事故	一般負傷	その他	合計
	応急処置対象人員	6,704	1,372	1,395	1,463	10,934
	止血	24	47	112	32	215
	固定	31	300	147	61	539
	人工呼吸	32	1	1	5	39
	心マッサージ	14	0	0	1	15
Ⅱ	うち自動	5	0	0	1	6
	心肺蘇生	241	5	28	26	300
Ⅱ	うち自動	32	0	5	3	40
	酸素吸入	1,190	33	55	434	1,712
	気道確保	302	10	32	43	387
Ⅱ	うち経鼻エアウェイ	17	0	2	0	19
Ⅱ	うち喉頭鏡・鉗子等	6	0	3	0	9
救	うちラリンゲアルマスク等	98	0	5	9	112
救	気管挿管	11	0	8	1	20
	保温	335	42	70	99	546
	被覆	45	418	392	94	949
Ⅱ	在宅療法継続	21	0	2	0	23
Ⅱ	ショックパンツ	0	0	0	0	0
Ⅱ	除細動	18	1	1	3	23
救	静脈路確保	51	0	4	4	59
救	薬剤投与	31	7	6	6	50
Ⅱ	血圧測定	6,241	1,328	1,268	1,341	10,178
Ⅱ	聴診器	814	57	79	94	1,044
Ⅱ	血中酸素飽和度の測定	6,424	1,341	1,325	1,405	10,495
Ⅱ	心電図	1,640	21	69	246	1,976
	その他	4,444	334	495	714	5,987
合計		21,898	3,945	4,086	4,608	34,537
拡大された応急処置等		15,409	2,755	2,777	3,113	24,054
（うち救命処置）		209	8	24	23	264

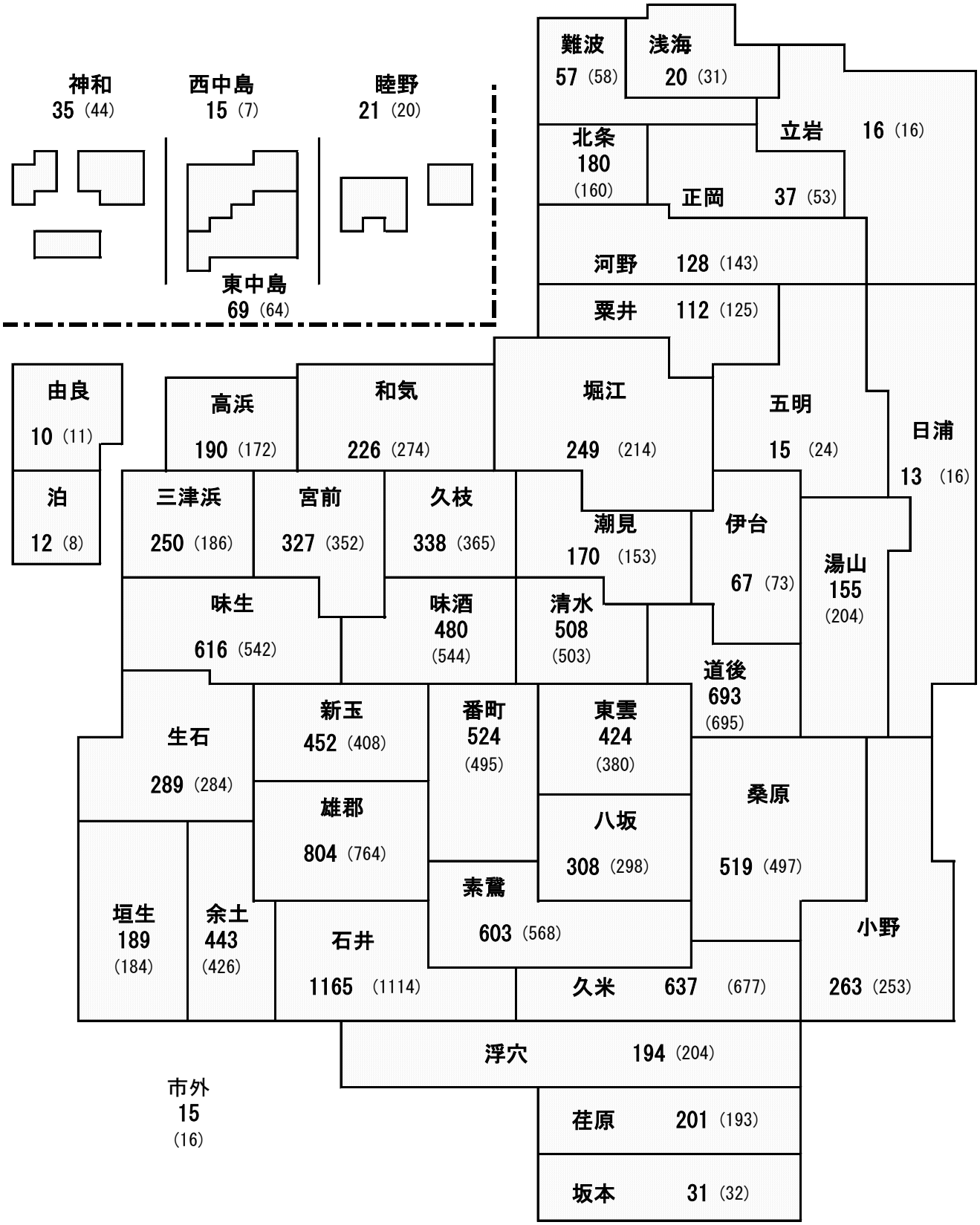
（注）

「Ⅱ」とは、救急Ⅱ課程修了者、標準課程修了者、救急科修了者が実施可能な処置
「救」とは、救急救命士が医師の指示により実施可能な救命処置
} 拡大された応急処置等

５　地区別救急発生状況

出場件数１２，０７０件　（前年１１，８５０件）

（　）内は前年同期の発生状況



平成26年　上半期　火災・救急統計

火災統計に関するお問合せは
松山市消防局予防課
TEL：（089）926-9247　　FAX：（089）926-9163
E-mail：sbyobou@city.matsuyama.ehime.jp

救急統計に関するお問合せは
松山市消防局警防課
TEL：（089）926-9227　　FAX：（089）926-9188
E-mail：sbkeibou@city.matsuyama.ehime.jp

※平成26年上半期火災救急統計は松山市のホームページにも掲載しています。
http://www.city.matsuyama.ehime.jp/kurashi/bosai/sbbousai/sbtoukei/toukei.html